

## 平成30年度 学校評価報告書（目標設定）

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
			具体的な方策	評価の観点
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒一人ひとりの進路を保障する教育課程を編成し、「読解力」の視点から授業の質的転換・向上を図るため、組織的な授業改善に取り組む。</p> <p>②生徒会活動や学校行事を通して、豊かな人間性、積極性と社会性を備えた生徒を育成する。</p>	<p>①主体的な学習を積み重ねる習慣を生徒一人ひとりに定着させ、学力向上を図るために、授業のあり方を見直し、授業展開の充実を図る。</p> <p>②学期制や授業時間の変更に伴う変化に適切に対応し、学校内の諸活動における活動の質と量の充実を目指す。</p>	<p>①生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組める授業研究を推進し、「読解力」を高めるための自発的な取組を推進・支援する視点を踏まえた授業実践を心がけて、柔軟な指導方法の研究を進める。</p> <p>②学期制や授業時間の変更によるメリットを最大限に生かせるよう、生徒の学校での活動全般におけるバランスに配慮する。時間を有効に使うための指導により、生徒の実践の質を高める。</p>	<p>①生徒による授業評価項目4における「4 かなりあてはまる」の回答が40%以上となったか。</p> <p>②生徒主体の授業や学校行事のあり方について、時間を有効活用したかという視点を踏まえ、その量と質を高めることができたか。</p>
2 生徒指導・支援	<p>①部活動のこれまでの伝統を継承する中で、新たな活動や学習活動との両立を図る取組を行う。</p> <p>②生徒一人ひとりの人間的な成長と心ふれあう教育を推進するとともにきめ細かな教育相談体制を確立する。</p>	<p>①現在の部活動加入率（90%以上）を維持し、保護者や地域の理解と協力を得て、部活動を活性化させる。</p> <p>①適切な休養日を含めた指導計画を作成し、部活動と学習活動の両立を図る。</p> <p>②問題を抱える生徒を把握し、適切に対処する。</p>	<p>①部活動指導体制の充実や施設面の改善を図るとともに他校や外部団体との交流等により活性化を図る。</p> <p>①夏季講習等の講座について、部活動との調整を行い、生徒の受講を可能とするとともに生徒への積極的な参加を促す。</p> <p>①定期試験前の部活動を必要最低限にする。</p> <p>②学年会やケース会議等を通じて定期的に生徒に関する情報交換を行い、関係職員だけでなく全職員で現況を共有する。</p>	<p>①部活動加入率90%以上を維持できたか。</p> <p>①生徒の部活動に対する満足度が高まったか。</p> <p>①適切な休養日を含めた指導計画を作成し、実施できたか。</p> <p>①部活動加入生徒の夏季講習参加への体制作りができたか。</p> <p>②問題を抱える生徒に対する働きかけにより学校生活に改善傾向が見られるか。</p>
3 進路指導・支援	<p>卒業後までを見通したキャリア教育を充実させ、生徒の第1志望への進路実現を支援する進路指導を推進する。</p>	<p>キャリア教育の視点から、適切な進路指導を行い、生徒の進路希望の実現をめざす。</p>	<p>職員研修を実施し、高大接続改革や、模擬試験や合否結果等のデータの分析方法及び活用方法を研究するとともに面談等による生徒への個別指導の充実を図る。</p>	<p>・スーパーグローバル大学(トップ型)現役進学率10%以上を達成したか。</p> <p>・国公立大学現役合格率12%以上を達成したか。</p>
4 地域等との協働	<p>外部へ本校の教育活動の情報を発信し、地域に根ざし、貢献する学校づくりを進める。</p>	<p>①学校評議員会等を通じて学校へのニーズを的確に把握し、近隣の小・中学校及び自治会等との密接な協働体制の構築に努める。</p> <p>②本校の教育活動の情報を積極的に発信する。</p>	<p>①中学校との交流推進を図るとともに、生徒会等を通じて地域の自治会及び福祉施設等と積極的に交流し、地域との協働体制の推進を図る。</p> <p>②学校HPを活用し、積極的な情報発信を図る。学校説明会などにおいて本校の紹介の充実を図る。</p>	<p>①中学校との交流事業、地域主催の協働事業及び福祉事業に積極的な参加が図られたか。</p> <p>②本校を紹介する活動において学校HPなどを通じた情報発信の更なる充実が図られたか。</p>
5 学校管理 学校運営	<p>①若手とベテランの教員の相互理解とスキルの継承を図り、すべての職員が一体となって課題に取り組む体制を構築する。</p> <p>②老朽化した設備を更新するとともに災害発生時のさまざまな場面に対応できる体制を整備する。</p>	<p>①若手とベテランの教員の相互理解とスキルの継承を図る。</p> <p>②安全・安心な教育環境の整備を推進する。</p> <p>②地域の防災組織と情報を共有し、災害発生時の安全性の確保に努める。</p>	<p>①教員の役割分担において、若手とベテランを適正に配置し、業務の継承が円滑に行われるよう配慮する。</p> <p>②整備が必要な老朽化した設備の計画的な改善を行う。</p> <p>②東日本大震災や熊本地震など直近の事例を教訓として、「生徒への災害図上訓練(DIG)」や「喫食訓練」等の実践的な防災訓練に取り組む。</p>	<p>①業務の共有・継承が進んだか。</p> <p>②施設・設備の整備や改善を図ることができたか。</p> <p>②生徒への災害図上訓練(DIG)や、災害を想定した実践的な防災訓練を実施し、生徒への防災意識を高めることができたか。</p>

「教育目標・教育方針・中長期的な方針など」

21世紀を生き抜く、知・徳・体ともにそなえた円満にして実践力のある人材を育成する。

- 生徒一人ひとりの進路を保障する教育課程を編成する。
- 生徒一人ひとりの人間的な成長と心ふれあう教育を推進する。
- 「読解力」の視点から授業の質的転換・向上を図り、生徒自身の自ら学ぶ力を育成し、基礎学力の定着と発展的な学力の伸長をめざす。
- 卒業後までを見通したキャリア教育を充実させ、生徒の第1志望への進路実現を支援する進路指導を推進する。
- 生徒会活動、学校行事及び部活動等を通して、豊かな人間性、積極性と社会性を備えた生徒を育成する。
- 外部へ本校の教育活動の情報を発信し、地域に根ざし、貢献する学校づくりに取り組む。
- 安全・安心な教育環境の整備を推進し、災害発生時の安全性の確保など防災体制を確立する。